



開かれた県庁を目指して、県展入賞作品を県庁内に展示しています。

今後、本県は、特色ある歴史や文化、芸術を活かして地域や人がつながり、支えあう長崎県づくりに全力で取り組んでまいりますので、皆様方におかれましては、引き続き、格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

このように、県では、「新たな日常」における文化芸術活動に対して支援を強化するとともに、令和7年度に誘致を目指す「国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭」に向けた準備を進め、地元市町と一体となって、県民の皆様の機運醸成や受入体制の整備、文化団体の基盤強化などを図ることとしております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術活動の自粛を余儀なくされる中で、文化芸術には、豊かな人間性を養うとともに、県民の皆様の生活に潤いをもたらす大きな力があることに、改めて気づかされました。

当協議会は、昭和38年に設立されて以来、一貫して加盟文化団体とともに地域文化の振興のため活動し、本県の文化芸術振興、人材育成に大きく貢献してまいりました。これもひとえに会員皆様のご支援、ご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

長崎県文化団体協議会加盟団体の皆様には、日頃から地域における文化活動の推進役として、ひとかたならぬご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

会長あいさつ



長崎県文化団体協議会 会長
長崎県知事
中村 法道

令和2年度 活動報告



国文祭誘致の要望書提出

令和2年	6月12日	協議会（書面決議）
	6月27日	第48回長崎県新人演奏会【中止】
	7月1日	総会（書面決議）
	9月4日	県へ国民文化祭誘致の要望書提出
	10月10日	Museum Concert 2020 ～フランス音楽の香り～

令和3年	1月7日	ニューイヤーコンサート2021【中止】
	1月7日～31日	第16回長崎県選抜作家美術展 長崎会場、佐世保会場、南島原市会場
	3月13日～14日	第48回長崎県新人演奏会オーディション
	3月20日	厳原中学校吹奏楽クリニック&ミニコンサート
	3月21日	長崎OMURA室内合奏団対馬コンサート2021



Museum Concert 2020



Museum Concert 2020 (記念写真)



ニューイヤーコンサート2021【中止】



第16回長崎県選抜作家美術展



厳原中学校吹奏楽クリニック (記念写真)



ミニコンサート (記念写真)



(左・上) 長崎OMURA室内合奏団 対馬コンサート2021

この一年、コロナの影響で、長崎県内でも、社会生活全般が大きな影響を受け、我々が関係する文化活動でも、多くの公演、イベントをはじめ、地域の伝統行事、お祭りなども、ほとんど中止になりました。「人が集まる事」が前提のイベントが、感染拡大防止の観点から、「中止」されたのは、仕方がありませんが、一年に一度しかない発表の場がなくなり、とても残念な思いの関係者も多いと聞いています。私は、地元の音楽団体や音楽家の皆さんが参加する県音楽連盟の理事長も務めています。地元の音楽家の多くが、コロナのために、コンサートが中止になったり、音楽活動ができなくなると、厳しい状況になっています。そこで、県文化振興課とも協力し、国の助成策も活用する形で、NBCラジオで、地元音楽家の演奏とメッセージを伝える番組「心をつなぐ音楽の贈り物」を、約6ヶ月間放送し、出演者にも、ラジオを聴いた人にも喜んで頂きました。

また、12月には、文化庁の支援事業「ジャパン・ライブ・エール・プロジェクト」の一環として、長崎OMURA室内合奏団とともに、長崎、佐世保、大村の3ヶ所で「蝶々夫人名曲集&長崎のウタ」コンサートを開催しました。開催に当たっては、国の指針を遵守しての感染対策、マスク、検温、消毒、来場者の氏名把握、入場者数の制限などを、きっちり対応しました。（写真参照）

とは言え、幸いこのコンサートは、開催されましたが、その後、長崎に「緊急事態宣言」が出されて、そのあとに予定されていたコンサートは中止となりました。一方で、こういう時代、状況だからこそ、新しい「発表の場」という事で、長崎県の呼びかけで、初めて「オンライン文化祭」が開催されました。私も、実行委員として、運営に関わったものの、我々「昭和世代」は、「オンライン」と言われても、あまり具体的なイメージが湧かず、半信半疑でしたが、

集まった「作品」を見て、認識を新たにしました。私は、「音楽部門」の審査にも当たりましたが、多くの「作品」が、演奏、パフォーマンス、映像処理、メッセージ性と、様々な工夫を凝らしていて、まさに「新しい、今の時代の表現」と、感心、感動しました。コロナが収まっても、何らかの形で活かしたい「表現手段」です。こういう中、県は、4年後（2025年）に、「国民文化祭」を、長崎県に誘致する意向を示しています。スポーツの「国体」に比べて、県民の関心が高いとは言えませんが、長崎県の「文化的行事」としては、かつてない取り組みが求められることになります。今年から、4年後に向けて、県下全域で、気運を盛り上げていくことが大切だと思います。まだまだ、状況は、予断を許しません。一日も早く、安心、安全に、これまでのような「文化的な日常」が戻ることを願いつつ、「次の目標」に向けた活動を始めることが、今年の「文団協」の課題だと思います。

「次の目標」に向かって、動き始める年に！



副会長
河野 英雄
(長崎交響楽団 理事長)



「蝶々夫人名曲集&長崎のウタ」コンサート 12/10 長崎ブリックホール公演

第29回 長崎県美術協会書部代表作家展

第13回 日韓親善交流書展（併催）

長崎県美術協会
理事（書部）
山口 廣 利（天水）

会 期	令和2年 11月 11日(水)～ 15日(日) 5日間
場 所	長崎県美術館 県民ギャラリー（ABC室）
主 催	長崎県美術協会 長崎県美術協会書部 （財団法人）釜山書芸 BIENNALE
出品点数	県美協書部 103点 / 韓国 62点
計	165点
観覧者数	計 664名



日本側の作品

今回はコロナ禍の中での開催ということで、色々な問題もあり、韓国側からの作品の郵送については、長崎県文化観光国際部、対馬・釜山事務所の関係者に色々ご協力を頂き、無事に作品が届き展示することが出来ました。これまで、日韓交流書展開催では、開場式、祝賀会が行われ、役員、出品者等が参加して交流を深めていましたが、今回は、コロナウィルス感染予防の為、会場式及び祝賀会は中止せざるを得ませんでした。また、残念ながら



韓国側の作品

書部代表作家展は県展審査会員による作品展示を毎年長崎県で開催、日韓交流書展は一年おきに長崎、韓国（釜山市）で交互に開催しております。今回は長崎で書部代表作家展と日韓交流書展を開催致しました。

県民ギャラリーA、B室には県美術協会名誉会員（書部）、書部役員代表者と韓国側の役員の作品を交互に展示し、ギャラリーC室には書部代表作家の作品を展示しました。

韓国作品はハングル文字の作品等もあり日本とは違う雰囲気の商品を鑑賞することが出来ました。

ら韓国側からの訪日も出来なくなり、韓国側より会場に来て頂くことが出来ませんでした。その為（社）釜山書道ビエンナーレ理事長 金錫浩（キムソクホ）氏より書面でメッセージを頂き、長崎県美術協会書部代表の江副景舟先生の挨拶文と一緒に会場に掲示致しました。

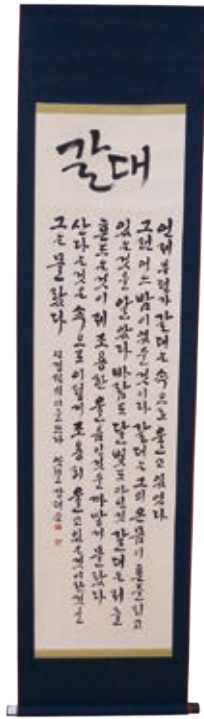


金錫浩（キムソクホ）理事長より

コロナ禍の中での開催ということで、受付での対応など今までは違い戸惑うこともありましたが、また、観覧して頂いた方もいつもより少ない状況でしたが、一日に100名以上の方に観覧して頂き無事終了することができました。

今回の日韓交流書展は韓国（釜山市）で開催されます。その時には世の中が落ち着き、訪韓し親しく交流できることを願っています。

最後になりましたが、長崎県はじめご協力を頂きました関係各位に感謝とお礼を申し上げます。



韓国側の作品



私たち長崎県文芸協会は、文芸を通して交流を深め、地域文化の発展と振興に微力ながらも力を尽くすことを目的として活動しています。

その目的を遂行する手段として、毎年七月末を締め切りに、県内の小説、随筆、現代詩、短歌、俳句、川柳の各結社より全県下に広く呼びかけて頂き、少しでも多くの県民から作品を募集できるよう働きかけています。集まった作品は、委嘱したそれぞれの部門の選者に選を依頼して各賞を決定し、十一月に開催する長崎県文芸大会において表彰式を取り行います。

また、それらの記録の全てを『長崎県文芸』という年刊の総合文芸誌にまとめ、応募者のみならず、広告を出して下さった事業主の方、賛助会員の方など、関係者全員に配布します。



令和元年度
第59回長崎県文芸大会
表彰式

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で誌上大会となりました。

第六十回『長崎県文芸大会』 入賞者及びその作品（抜粋）
小説の部
第一席 花の雨
第二席 提灯
佐世保 高月 美秋
長崎 田川喜美子

随筆の部	第一席 心鳴庵にて	五 島 伊東 秀詠
第二席 手箱	西 海 橋 早生	
現代詩の部		
第一席 流れるかたち	長 崎 浜口 幸成	
第二席 あたたまらない空	諫 早 松尾 静子	
短歌二十首詠の部		
最優秀賞 庭の四季	島 原 立石千代女	
咲き初めし白梅に長くどまれる立春近き夕べのひかり		
優秀賞 リバイバル	佐世保 岩佐 和子	
ラジオから流れる歌はリバイバル昔の恋を回想させる		
優秀賞 こころ	大 村 高瀬佐奈恵	
花ひらく季をむかへる桜木の梢見上げつつ深呼吸せり		
短歌一首詠の部		
最優秀賞	佐 々 岸本 洋子	
大仏も紅葉も鹿も生徒らのピース写真の背景となる		
優秀賞	佐世保 田頭 律子	
実柘榴に詰まる幼日透きとおる数えきれない過去を覗かす		
優秀賞	長 崎 渡辺美樹子	
晴れた朝削りたてなる角材の香りを積みてトラックが行く		
優秀賞	佐世保 吉住 紘雄	
父母よ見ていましたか出来ました喜寿の真夏のわが逆上がり		
俳句二十句吟の部		
最優秀賞 墓洗ふ	佐世保 梶山カズ子	
くれなるの濃きゆゑ寂し落椿		
優秀賞 みどり児	福 岡 黒田 定	
みどり児の大きな欠伸山笑ふ		
優秀賞 一本道	大 村 池田 佳子	
巣箱めく五月の蔵の明り窓		

俳句二句吟の部		
最優秀賞	大 村 松本 裕子	
万緑や垂れて右巻き象の鼻		
優秀賞	長 与 阿部 順子	
髪洗ふ全身の血を逆しまに		
優秀賞	西 海 岩永 充三	
今日売らるる牛の高啼き木の芽風		
川柳二十句吟の部		
最優秀賞 コロナ長期戦	長 与 矢坂 花澄	
流言飛語スーパの棚空にする		
優秀賞 抛り所	長 崎 森 昇	
生きて行く知恵を万物から学び		
優秀賞 百四歳で逝った母	長 崎 松本 篤世	
軍人の雄姿に惹かれ妻になる		
川柳二句吟の部		
最優秀賞	島 原 松本富士子	
励ましの一語心の慈雨となる		
優秀賞	諫 早 森川 康	
膝を折り陸下水禍へ寄り添われ		
優秀賞	諫 早 野田 春美	
寄り添って言葉無いまま肩を抱く		
優秀賞	佐 々 内野 晴美	
励ましは父の一言頑張れよ		
新型コロナウイルスの影響により、残念ながら今年の大会は「誌上大会」にせざるを得ませんでした。しかし、高齢の会員の多い当協会において、日本の伝統文化を支えていこうという気概をもつ方が大勢おられることは、非常に頼もしいことです。来年度はアルカスSASEBOで開催できること、若い応募者が増えることを、心より期待しております。		



長崎県 オペラ協会

長崎県オペラ協会
事務局長 篠 暁子

令和2年春、全国的に緊急事態宣言が出されたことで、10月4日に予定していた第42回定期演奏会での新作オペラ公演が中止となりました。東京から招く予定であったオペラ指導者・キャスト・スタッフの来県が難しくなり、長崎においても稽古が出来る状況ではなくなったことが大きな要因です。

普通ならこの時点で、予約していたホールをキャンセルしオペラ公演が出来る機会を待つのですが、オペラ協会には違いました。客席利用制限により大赤字になる、感染拡大状況によっては無観客も覚悟する…等のことを承知し、内容を「心に響く歌」のち被爆75周年の祈りと変更。そして「積み重ねてきた歩みを止めてはならない」という気持ちで、開催に向けて動き出すことになりました。思い返せば、この決定に至るまでの話し合いが一番大変だったように感じます。

稽古のために予定していた機会は、全て東京とのリモートとなりました。初めてのことはばかりで戸惑いや失敗も多く、対面での稽古に比べてお互いにとっても労力が要りました。しかしこういう事態でなければ「リモート稽古」は経験出来なかったことでしょう。これは活動の一つの可能性として生かして

いけるだろうと思います。

直前まで慌ただしいことばかりでしたが、多方面からのご協力のもと、定期演奏会は無事に終演しました。お客様からは「久しぶりに生の演奏や歌声が聴けて感動しました」「コロナ禍に於いての活動に拍手を送ります」「感染対策が十分に取られていたので安心でした」等という声をたくさん頂戴しました。客席利用を25%ほどに留め、チケット代も低めに設定したため案の定大変な赤字でありましたが、文化団体協議会の助成金を頂きましたので、その赤字幅を小さくすることが出来ました。本当にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症との闘いが始まってから一年が経ちました。東京の方では感染対策を施しながらオペラ公演が開催されていますが、地方・長崎においては正直まだまだ難しい状況です。ですがそこは歩みを止めないオペラ協会。いつの日か来るその機会のために、ミニコンサート（練習発表会）、音楽個人レッスン等で力を蓄えようと計画しております。

このコロナ禍で「音楽の力」の大きさを改めて感じました。より良い演奏が出来る団体を目指して頑張つて参ります。応援よろしく申し上げます。



一般社団法人 長崎民謡舞踊連盟
理事 石橋 大作

長崎における

民謡舞踊

普及の歴史



私達「長崎民謡舞踊連盟」は、長崎県下で民謡舞踊を楽しむ約百五十の民謡団体で構成されています。

昨年二〇二〇年は、様々な「長崎県被爆七十五周年記念事業」が企画され、弊連盟も「長崎平和盆踊り大会」を計画し記念事業に選定されました。

八月九日、市営陸上競技場での開催に向け、準備を行い、テレビ・新聞各紙・そして長崎市の広報誌でも特集が組まれました。さらに長崎市内全自治会へもポスターとチラシを配布、各地域での盆踊り講習会も開催して、長崎県内の連盟会員だけでなく、踊りに馴染のない一般の方々もお誘いし、出来るだけ多くの方々と共に、原爆で犠牲に遭われた方々の慰霊と平和推進の祈りを捧げようと、当初三千人の参加を目標に広報をいたしました。

しかし、長崎市内での新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら中止に…。

「長崎平和盆踊り大会」は、その第一回が昭和二十二年八月九日、長崎への原爆投下から二年後に、慰霊と平和祈念の為、ある青年の呼びかけで開催されました。大会に向けて「長崎盆踊り」という曲も作られ、作曲は、あの古関裕



と記録に残っています。

この想いを継いで、毎年原爆慰霊を目的とした盆踊り大会が続き、昭和二十六年頃からは、弊連盟の石橋理事長も大会に関わり、「長崎盆踊り」を普及する為に、レコードの増版（再録音）に尽力し、各地で指導を行いました。

その頃から、婦人会・企業等のレクリエーション活動で、踊りの愛好家が長崎県下増加し、昭和二十七年、長崎市レクリエーション協会主催で「第一回長崎市民謡民芸大会」が始まると、民謡指導者の需要が急速に高まりました。

そして、指導者養成の為の「長崎民俗舞踊研究会」が発足、各指導者のもとに数多くの民謡愛好団体が生まれ、やがて、長崎市白鳥町に建設された「長崎民謡会館」を拠点として「一般社団法人長崎民謡舞踊連盟」が組織されることとなりました。

弊連盟に加盟する各民謡団体は、日頃の例会で稽古を重ね、各地域における文化祭等の舞台発表や、盆踊り・秋祭り・敬老会等の行事、高齢者福祉施設等への慰問活動など、踊りを通じて地域の皆様と交流し、文化的側面で少しでも貢献できるよう力を尽くしております。



而さんが担当されました。

こうして「第一回長崎平和盆踊り大会」は約三万人もの市民が参加して大盛況に開催された



昨今は、健康促進・介護予防の観点からもダンス・舞踊が注目されています。振りや手先を意識し、全身を使って楽しく踊ることは、体力づくりとストレス解消にとどまらず、認知症予防効果の研究もなされています。

また、未来へわたつて日本の伝統文化を守る為に、子供達への伝承という重要な使命を担っていることと自覚し、今後も様々な地域活動に協力しながら、文化振興としての民謡舞踊の保存・普及に精進してまいります。



県では、県内各地において地道な文化活動を続け、地域文化の向上と発展に貢献している個人及び団体に対し長崎県地域文化章を贈り、その活動と業績を顕彰しています。

第35回は、肥前島原子ども狂言(島原市)、上村紀元氏(諫早市)、NPO法人波佐見講堂ファンクラブ(波佐見町)の2団体、1個人が受章しました。

肥前島原子ども狂言 地域文化継承のための 育成を地域力で支える

島原文化連盟
肥前島原子ども狂言協力会
北田 貴子

「文武両道こそ藩の基盤である」。初代松平島原藩主・忠房の言といます。歴代藩主は自ら能を舞うほど能・狂言を愛し大事にし、広く領民を招いて共に慶事を喜んだといわれています。「肥前島原松平文庫」に伝わる謡本など能・狂言に関する書籍からも、学問・文化の育成として能楽の振興も行われ、島原では藩主や家臣だけではなく、庶民も能楽を楽しんでいたことがわかります。このような城下町・島原における能楽の歴史と文化を守り育て継承していこうと、1983年(昭和58年)に「島原城新能」が復活。島原城天守閣を背景に島原の秋の風物詩として毎年開催されています。しかし20年程前、島原城新能も運営を支える地元の能楽愛好家の高齢化などの問題から深刻な存続の危機を迎えていました。

そのような中、あらためて島原の次世代の子ども達に、城下町・島原に息づく長い能楽の歴史の風情溢れる文化の素晴らしさを継承していこうと、平成16年に島原の地域文化育成事業として島原子ども狂言の活動がはじまりました。毎年4月に島

原市内の小中学生を中心に募集し、5月の開講から講師の和泉流狂言方・野村万緑先生のご指導のもとお稽古をかさね、10月の島原城新能の舞台で発表しています。3歳から高校2年生までの幅広い年齢層で、新規参加者と年々成長した継続参加者が島原城新能の舞台発表を目標に支えあいながらお稽古を重ね、舞台発表の達成感を共有することは、とても貴重な郷土文化の体験であり、継続的に文化継承していくための大切な要素になっています。運営も肥前島原子ども狂言協力会のボランティアスタッフを中心に、島原市教育委員会、島原城新能振興会と連携し協力体制で行なっています。また地元の新聞やケーブルテレビも17年間、この活動と子ども達の成長を記録し発信してくださっています。このように地域の様々な立場から地域文化伝承に、それぞれができることを繋ぎあわせて工夫をしながら取り組むことで継続できた活動です。平成18年からは昔から庶民により島原で語り継がれてきた狂言を原案に、豊饒の海「有明海」を舞台にした島原狂言「釣ろうよ」を創作し発表。毎年秋の「島原城新能」、火山都市国際会議やユネスコ世界ジオパーク等の国際会議で海外の方にご披露する舞台など島原の特色ある素晴らしい舞台発表の機会にも恵まれています。これからも、島原城築城400年を迎える城下町・島原に伝えられてきた能楽の歴史の風情溢れる文化の素晴らしさを、次世代の子ども達と共に継承する島原ならではの活動として育てていきたいと思っています。

そして、「島原城新能」や県文化財「肥前島原松平文庫」などと合わせ歴史的な意義を深めながら、城下町・島原の歴史と文化を日本の伝統文化「狂言」の舞台発表で国内外に積極的に伝え発信していきたいと思っています。島原の歴史や伝承文化を、誇りをもって伝えることができる子ども達も育ち、島原の未来やそれぞれの人生をより豊かに、伝統を礎に創造力をもつて生み出してくれることを願っています。今春には長崎県地域文化章受章記念「第38回「島原城新能」春の狂言会をお祝いの公演として開催します。桜舞う島原城の光景と共に、鑑賞してください。秋には第39回「島原城新能」も開催します。皆様ぜひ城下町・島原の伝統ある文化を味わいにお出かけください。



これまでは市町等の推薦のみでしたが、第36回からは、地域資源の更なる掘り起こしを進めていくため、自薦も含め広く候補者を募集されることとなりました。推薦は、例年11月頃です。

長崎県子ども劇場連絡会

「子どもの声をひろう」 ファシリテーター養成講座

コロナ禍や日常の中で、ストレスや不安、問題など、いろいろな思いを自分の中に押さえてこんでいる子どもたちがいます。そんな子どもたちの声を聞き、一緒に考えることができる大人を増やすために、県民ボランティア振興基金支援事業「『子どもの声をひろう』ファシリテーター養成講座」を県内3ヶ所で実施しました。

12月に「ワークショップ・あそびの中に権利あり!」を表現活動クリエイターの北島尚志さんを講師に迎え、大人を対象に行いました。楽しく遊びながら、権利について考え、意識するきっかけをつくる活動になりました。2月に「ワークショップ・権利を知ると子育てはおもしろい!」を当会理事が、子育て中の親を対象に行いました。『子どもの意見表明権』に焦点をあて、人に話を聞いてもらうことの嬉しさや、興味を持つて聞くことの大切さを体感することができました。

3月には、自粛の影響で1月から延期になった「劇づくりワークショップ」を実施しました。NPO法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバンから講師を迎えて、子どもたちが話し合いをしながら劇をつくるワークショップ。子どもの活動を支える人たちが、子どもたちの話し合いのファシリテーターとして、学んだことを実践しました。子ども自身はもちろんのこと、大人が「子どもの権利」を知れることは、子どもに関わる課題を解決する上で重要なことですので、これからも学ぶ機会をつくっていきたいと思います。



ワークショップ・あそびの中に権利あり!



ワークショップ・
権利を知ると子育てはおもしろい!

絵本をあそぼう 絵本は親子のコミュニケーションツール

スマートフォンの画面に乳幼児の子守りをさせる、子どもとの遊び方が分らないなどの社会現象が起きています。親子の愛着形成に大事な乳幼児期に、絵本の読み聞かせや遊びを通して親子の楽しい体験の機会をつくりたいと、プレイアドバイザーで役者でもある中市真帆さんを講師に迎え、「絵本をあそぼう」絵本は親子のコミュニケーションツール」を実施しました。

乳幼児親子を対象にした「とびだせ!絵本」は、子どもゆめ基金の助成を受けて県内4ヶ所で取り組みました。コミュニケーションリーディングという手法で、折り紙を使ったり、歌を歌ったり、身体を動かしたり、絵本の世界にあそびを足していくことで、まさに講師と一緒に「絵本をあそぶ」子どもたちの姿に、絵本の楽しみ方の再発見ができました。何より親自身がゆったりとした時間の中で絵本を楽しみ、心地よさを体感し、もっと子どもと絵本を楽しもう!と思える時間でした。

また、乳幼児の活動や子どもに関わる大人対象の講座「読み聞かせ、(ダッシュ)」では、「子どもは声のトーンで読み手の感情を察知する」という話に、まずは子どもと絵本を楽しもうという気持ちが一番、その上で、絵本を通して、たくさんさんの疑似体験や新たな気づき・発見、知らないことを知る喜びを、子どもと一緒に共感していきたいとの思いを新たにしました。絵本の楽しさと奥深さを再確認し、「心のやりとり」を感じられる読み聞かせの時間を広げていきたいと思いました。



とびだせ!絵本



読み聞かせ「(ダッシュ)」

アルカスSASEBO ジュニアオーケストラ

アルカスSASEBOジュニアオーケストラは、2012年4月に「佐世保市児童管弦楽団（1988年発足）」を前身に、アルカスSASEBOを拠点にするジュニアオーケストラとして誕生しました。現在、佐世保市を中心に小学3年生～高校生81名が在籍。普段の練習では、県内外の演奏家が指導に当たり、ミュージックアドバイザーに新日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉コンサートマスターの豊嶋泰嗣先生、指揮指導者には元新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの清水颯輝先生をお招きし、演奏活動をしています。年1回の定期演奏会のみならず、様々な依頼演奏やアウトリーチコンサートで普段の練習の成果を披露しながら、たくさんの方々に音楽を楽しんでいただいています。

2016年からは他のジュニアオーケストラとの交流も行い、仲間と切磋琢磨しながら活動の幅を広げています。2017年、2018年には大分県の「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」と

の相互交流を行い、2018年おおいの国民文化祭「オーケストラと合唱の祭典」に出演しました。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大により、第8回定期演奏会の中止や3ヶ月もの活動休止期間があり、団員一同これまで当たり前のように練習や演奏会ができること、音楽を楽しむことができていたことが、どれほど幸せであったかを痛感しました。この経験を活かし、今後もより多くの方々に音楽を届けられるよう活動してまいりますので、応援よろしくお願ひします！



長崎歴史文化博物館 長崎開港450周年記念展 ～ふたつの開港～

2021年
 4/24(土)～6/6(日)
 5/17 休館
 [時間] 8:30～17:00
 [会場] 3階企画展示室



川原慶賀筆《長崎港図》文政9年(1826)

本展覧会は令和3年度に長崎市を中心に開催する長崎開港450周年記念事業の一環として行う特別展です。本展では近世期に海外との窓口として重要な役割を果たした長崎での文化交流、その舞台となった都市長崎に注目します。特に長崎にとって大きな転換点となった元亀2年(1571)の開港から安政の開港までを中心に、交流の諸相や長崎港・町の変化を考古資料、古文書、美術工芸資料などから見ていくことによって、「ふたつ」の開港がもたらしたものを再考していきます。

長崎県立長崎市立山1-1-1
 TEL:095-818-8366
 http://www.nmhc.jp/

長崎県からのお知らせ

長崎県文化団体協議会事務局をしている長崎県文化振興課地域文化推進班の主な事業についてご紹介します。

平成30年度から、文化芸術による離島地域の賑わい創出や、若者の新たな発想に基づく文化芸術を核とした地域づくりの推進、人材育成を目的に、離島地域で「長崎しまの国際芸術祭」、本土地域で「若者アート創造プロジェクト」を実施しております。来年度からは、若者が運営に参画し、地域への愛着を深めることを目指す新たな仕組みを構築し、開催地域を広げていくこととしております。

「描いてみんね!長崎」事業では、マンガ家や小説家などを招聘し、本県を舞台とする作品を多く生み出すことにより、本県の地域資源を幅広い世代の読者層に伝えるとともに、作品舞台を巡る「聖地巡礼」などによる交流人口の拡大を目指しております。

今年度は、コロナウイルス感染症の影響により、多くの文化活動が制約される状況となりました。長年続いてきた「長崎県美術展覧会」、「長崎県新人演奏会」が残念ながら中止となりましたが、来年度は「新しい生活様式」に対応した安全対策をとって開催できるよう準備を進めております。

また、活動・発表の場が減少している子どもたちに発表の場を提供するため、「ながさきオンライン文化祭」を音楽・アート・ダンスの3部門で開催したところ、690件、2,500名を超える参加がありました。オンライン文化祭は本年度限りの取組ではありますが、離島を多く抱える本県にとって、オンラインの手法は、今後の事業展開にも有効ではないかと考えております。

今後とも、皆様方のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。



長崎県美術館 2021年度企画展のご案内

長崎開港450周年記念 長崎港をめぐる物語

4月7日(水)―6月13日(日)

山下清《長崎風景》1963年 十八親和銀行蔵
 ©山下清作品管理事務所



特別展 りぼん 250万りぼんっ子♥大增刊号

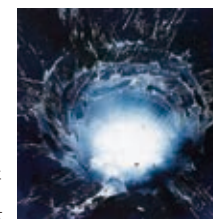
4月16日(金)―5月27日(木)



ミケル・バルセロ展

6月10日(木)―7月25日(日)

《午後の最初の一頭》2016年
 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
 ©David Bonet



この他、『「五島百景」完成記念 山本二三展 the BEST』など多彩な展覧会を開催します。詳しくは長崎県美術館ウェブサイトをご確認ください。



世界的な建築家・隈研吾がデザインした美術館。主な収蔵作品は長崎ゆかりの美術とスペイン美術。ピカソ、ダリなどスペイン美術の作品数は東洋有数の規模を誇ります。

休館日 | 第2・4月曜日
 開館時間 | 10:00～20:00(4月1日より)
 ※開館時間は変更になる場合があります。

長崎県美術館
 Nagasaki Prefectural Art Museum
 長崎県長崎市出島町2番1号 〒850-0862
 tel:095-833-2110 http://www.nagasaki-museum.jp

パンドミックと希望

長崎県文化団体協議会副会長
佐世保文化協会会長

小西 宗十



ギリシア神話で人間に最も関係のある神は、ティタン神族のプロメテウスとエピメテウスの兄弟神である。

プロメテウスとは「先に考えるもの」あるいは「先見の明をもつもの」の意であり、これに対して、エピメテウスとは「後で考えるもの」あるいは「愚鈍のもの」の意である。

プロメテウスは主神ゼウスの意向に反して、人間に火を与えた。この火こそ、人間に技術と文明と文化活動を可能にさせた原動力となったのである。プロメテウスは人間に火を与える代わりに、前を見通す力、すなわち先見の明を奪った。先が見えて人間が絶望しないためにともいわれている。

プロメテウスが人間に火を与えたことに怒ったゼウスは、プロメテウスを捉え、コーカサスの山頂に鎖でつなぎ、鷲をけしかけてその肝をついばませた。プロメテウスは不死の神だから、一夜のうちに、胆は新しく生え、永劫にそれをついばむ鷲の与える苦痛を耐えしのばなければならぬ。

火を手にして栄える人間を許しがたく思ったゼウスは、ヘパイストスに命じて、美しい人類最初の女パンドラ（すべての贈り物）を意味する）を作らせた。

そしてこのパンドラを、プロメテウスの愚かな兄弟エピメテウスに与えるのである。

プロメテウスは、前もってエピメテウスに、ゼウスからの贈り物は決して受け取ってはならないと忠告していた。それにもかかわらず、エピメテウスは、この美しい女を花嫁として受け入れたのである。

神々は嫁ぐパンドラに小箱をもたせた。この小箱には人間に災いするすべての悪が入れられていて、封じられていた。

もちまへの好奇心から、パンドラはその小箱の封を開けた。そしてそこから、病、闘争、苦悩、嫉妬などさまざまな災厄が飛び出して人間に襲いかかったのである。パンドラはあわてて小箱のふたを閉じた。箱の底に唯一残ったのは、「希望」だった。

いま私たちは、パンドラの箱から飛び出した新型コロナウイルスという疫病のパンドミック（世界的大流行）のさなかにある。一昨年の暮れまで、誰一人このような事態を想像することはできなかった。人間は先見の明をもたないから。

しかし、なすすべはないと絶望する前に、私たちは希望だけは残っていると信じよう。文化活動の隆盛が必ず帰ってくる。

編集後記

令和2年度は、コロナ禍でいろいろなイベントが中止、延期となつたと思います。しかし、文化芸術が人の心や生活に不可欠なものであることを、実感する機会ともなりました。長崎県では、被爆80年にあたる令和7年度に国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭を誘致する動きが始まりました。文化芸術に関わる皆様にとつて、本県の文化力を全国に発信できる大きな目標ができたのではないのでしょうか。将来に向けて文団協の活動を再び活性化させていく、機関紙「文協」の復刊や専用ホームページ開設もその取組の一環と考えていただければと存じます。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

第48回 長崎県新人演奏会

令和3年6月13日(日) 開演 14時00分 予定
とぎつカナリーホール

西川	真衣 (ピアノ)
中村	卓士 (ピアノ)
小市	和音 (ソプラノ)
谷川	聖 (ソプラノ)
杉野	萌衣 (ファゴット)
西村	元気 (フルート)
石尾	きらら (クラリネット)
本多	史佳 (フルート)
宮崎	琴望 (オーボエ)
尾下	香織 (マリンバ)
村田	静菜 (チェロ)
馬場	萌枝 (ヴァイオリン)

※オーディション開催部門順に掲載